(31) 岩手県陸前高田市の玉山 (たまやま) 金山跡 一増補版

現在、玉山鉱山跡へは無断立ち入り禁止となっている。が、現地の見学、水晶の採集はできる。現地を管理している「玉乃湯」に連絡をとり、予約をすれば良い。後掲の写真3に玉ノ湯でいただいたパンフレットの一部を掲載している。他の詳細などは玉ノ湯のホームページを参考にすれば良いであろう。予約をしないで、最近現地を再訪したので、現地への経路などを紹介する。

2019年8月



図1 岩手県の太平洋沿岸南部に位置している玉山金山付近の広域図。赤丸のところが玉山鉱山跡。地元では有名な氷上山西方の中腹にある。ここへ行くには、近年部分部分で開通しつつある三陸道を陸前高田 I C で降り、北に進む。3 4 0 号をA点で右折する、或いは先のB点で右折する経路もある。ともに村道を進み、林道となり、どちらを選択しても途中で合流し、玉ノ湯に向かう。 ついでながら、陸前高田市は2011年の津波で大被害を被った地域である。現在、海岸付近のC点に記念公園などが開設されている。地震による地盤沈下などによる海水による塩害で本物の「奇跡の一本松」は枯れてしまったが、複製木であるが「奇跡の一本松」も立っている。また、左下の飯森峠を下ると、博物館付きの「鹿折金山跡」もある。本探査記で既報である。



図2の上 図1の部分拡大図としての上半分。赤丸の下部当たりが「玉ノ湯」である。赤丸の中の社記号は玉山金山の守り神である「玉山神社」である。



図2の下 図1の部分拡大図としての下半分。340号から玉ノ湯への入口はA,Bの2カ所ある。部分の詳細はカーナビなどを参照すると良い。ちなみに、左を上から下の流れているのは「気仙川」である。この川では昔から砂金が取れるという話は聞いていたが、著者は今のところ、どの当たりで良く取れていたのかは知らない。この川の上流の住田町で河川工事中に砂金塊(重さ22.4g、ながさ3.5 cm、幅1 cm~1.5 cm、厚さ0.5 cm~0.7 cm)が昭和51年(1976年)に見つかったそうです。国内では3番目の大きさ。詳細は、現在ではインターネットで簡単に調べられます。砂金採取体験場所などについてもです。

鉱山跡写真



写真1 林道途中に立っていた看板。大分古い看板である。少し分かりにくいかも、次の写真が現代版である。



写真2 玉ノ湯の駐車場に立っている看板。

体験料 (ガイド料・入浴料・パンフレット込み)	2,180円	1,556円
※ガイドは土日のみ。平日にご希望の方は、お問い合	うわせください。	
[時間] 体験時間 2 時間程度 午前プラン・・・10:00	~ 午後プラン…14	:00≈
[午前プラン]の場合		
10:00 玉乃湯集合▶10:00~ 玉乃湯にて、金山探		
10:00 玉乃湯集合▶10:00~ 玉乃湯にて、金山探 ▶10:20ころ~ 実際に、玉山金山へ▶山登りは徒: ▶12:30~13:00に玉乃湯着。 到着後、ご入浴 (ご入)		

写真3 玉ノ湯のパンフレットの一部分。「水晶探し」の言葉がある。が、どの程度まで探せるのか? パンフレットの写真を見ると、参加者達は何の道具も袋も持っていない。ただ地面を見つめている様子である。それなりの鉱物愛好家にとってはこれでは満足しないかも。交渉してみるのも良いでしょう。南会津の「蛍鉱山」では、地区へ入山料を払うと、自由に立ち入りを許可してくれる所もあるので。

(31) \mathbf{x} 山 (たまやま) \mathbf{x} 山跡 出手県陸前高田市竹駒町の氷上産の麓にある鉱山。かっては主要鉱物として金、水晶などを産出していた。この鉱山跡は小生の故郷の直ぐ隣町にある。竹駒駅近くの細根沢地域の道路脇に玉山金山への案内板がある。これに従って、道を進んでいく。約4kmで玉山温泉にたどり着く。国土地理院の2万5000分の1の地図には、温泉記号が2つ連続しているが、上の方の温泉である(なを、下の温泉記号の所からも鉱山跡には行ける)。この温泉が背にしている山全体が玉山金山跡であり、遊歩道があり史跡化されている。幾つもある廃坑となっている坑口跡には坑名の指標も立てられている。山の至る所が石英のズリ、ペグマタイトのズリである。小さい水晶ならば、溢れかえっている。遊歩道上や道の脇で拾うのに事欠かない。が、欲張って狸堀などをしないこと。



国土地理院2万5千分の1地形図「今泉」+「大船渡」 地図 2009年1月 探查日

付加解説

(1) 玉山金山は、金山と名称を持っているが、現地を見ると、石英のズリの量は並の量ではない。 広大なズリー体が石英である。古代では「玉」とは、水晶のことを意味しており、「玉山」とは水晶 の出る山との意味であるらしい。

(3) 金を産出したらしいが、金鉱石らしい試料は見つけられなかった。

鉱山跡写真



建物は鉱山からの湧水を利用した温泉である。後ろの山全体が石英のズリで覆われている。



道に石英ズリがこれでもかと落ちている。



木々の間の斜面上の白い物は全て石英ズリである



中央の暗い部分が千人鉱であった。



金山跡内の案内指標。網はシカ防止用らしい。

採集鉱物写真 品名 武石

品名 化学組成 Fe₂O₃・3H₂O(褐鉄鉱) 色 褐色、黒褐色

断口 解説 (1) 母岩中に、褐鉄鉱が単結晶として析出している。黄鉄鉱結晶が空気と水との作用で変質し、水酸化物鉄鉱に変化したもの。



茶色にさびた部分の角張った物が武石である

水晶、石英 S i O₂ 透明、白色 品名 化学組成 色 断口



かわいい透明な水晶。